2010 年度 小委員会活動成果報告

（2011 年 2 月 2 日作成）

小委員会名	建築におけるビオトープ調査小委員会	**主 査 名**：小瀬博之 **就任年月**：2010 年 4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学本委員会（水環境運営委員会）	**委員長名**：久野　覚 **主 査 名**：小瀬　博之
設　置　期　間	2010 年 4 月　～　2011 年 3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	・従前の研究成果、執筆内容の確認 ・刊行等の方針・スケジュールの決定 ・関連する文献調査・実地調査	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：無 主査：小瀬博之（東洋大学）、幹事：田澤龍三（清水建設）、委員：浅香英昭（サンビーム）、猪又和夫（ピーエーシー）、岡田誠之（東北文化学園大学）、紀谷文樹（東京工業大学名誉教授）、輿水知（加倉工業）、須藤哲（イー・フィールド）、水谷敦司（竹中工務店）、	
設置 WG （WG 名：目的）	なし	
2010 年度予算	40,000 円	**ホームページ公開の有無**：有 **委員会 HP アドレス**：http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s21/

項　　目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１．従前の研究成果、執筆内容の確認を進め、未定稿の執筆候補者を決定した。 ２．刊行等の方針・スケジュールの概略を決定した。 ３．文献収集及びリストアップを進めた。
委員会活動の問題点・課題	１．1 年間の活動期間において、今後の活動への道筋をつけることが目標であったが、おおむね目標を達成することができた。 ２．2004 年度までにまとめられた研究成果は、すでに 6 年が経過している状況で内容の見直しが必要となる。次年度は内容の見直しを進め、現状に即した研究成果を再構築することが課題である。

＊小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

＊　小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

＊　中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用　自己評価欄

2010 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	1999 年度から 2004 年度まで活動した水環境運営小委員会または企画刊行小委員会（当時）に所属していた「循環型システムにおける水と緑 WG」の研究成果は、早期の刊行を予定していたが、刊行作業が中断していた。この成果の社会還元を目的として、その方針を検討する小委員会を発足し、今後の作業方針やスケジュールを決定するとともに、関連する文献や事例の収集を進めた。 1 年間の活動期間において、方針及びスケジュールの概略を決定することができた。当初より出版に向けた小委員会を発足させ、次年度に内容を引き継ぐ予定であったことから、おおむね本小委員会設置の目的を達成できた。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。